

研究のきっかけ

- ・ 地域を盛り上げるアートフォトイベントに高校生も参加できるということで興味をもったから
- ・ 芸術文化を通して地域や社会と関わる方法を探りたいと考えたから

研究の目的

- ・ 芸術文化を通して地域活性化を図る
- ・ 地域の空間を人と考えが交わる場として活用し、個人の内面と社会とのつながりを表現すること
- ・ 様々な視点や角度から、当たり前と感じている地域を見つめ直し、その理解や愛着を深める

研究の進め方

～PDCAサイクル～

- Plan** アート作品・空間展示・リユース作品を企画
- Do** アート作品を創作
空間展示（インスタレーション）
インプット
リユース作品を制作
- Check** 活動を通しての自己評価
- Action** リユース作品の日常利用



宇和島フォトフェスティバル2025（UWAJIMA SIGHTS）とは…
宇和島が持つ魅力を国内外に発信するアートフォトの祭典
開催期間 令和7年10月25日(土) ～ 令和7年11月24日(月)
開催場所 宇和島城、中心部の商店街ほか

私たちはSLOWS COFFEEさんに
展示させていただきました



芸術文化を通じた地域、社会とのつながり強化

現在、宇和島フォトフェスティバルについて来場者数や経済効果について公表がされていないが、地域の芸術祭である瀬戸内国際芸術祭を参考にすれば、イベントの規模は違うが、2～4億円ほどの経済効果はあるのではないだろうか。

作品の概要

「自分の好きなもの」 & 「社会とのつながり」

作品とキャプションを用いて内面の感情を表現した作品

「孤独」や「好き」といった個人的な感情を、否定や肯定に偏らず静かに見つめることを目的とし、見る人が自身の経験と重ねて考えられるよう構成した。キャプションを添えることで、受け手それぞれの解釈・感じ方を大切にしている。

現在は展示を終え、アパレルや生活雑貨への制作を進めている。

活動を通して考えたこと

制作や展示を通して、作品は完成した時点で終わるものではなく、その後の扱い方によって意味が変わっていくと感じた。本研究では、作品を販売や量産するのではなく、制作者自身が日常の中で使う形へと作り替えることを目的としている。個人利用という限られた範囲であっても、作品を生活に取り入れることに意義があると考えた。

また、イベントという場に限らず、作品や情報を通して宇和島の魅力が伝わることで、「行ってみたい」と感じてもらえる点にも意義があると考えた。

今後の予定

各々作品のアパレル化を進める

ex.メガネケース、ブックカバーなど

